

名古屋からの報告～17年小学校・18年中学採択で「教育出版」道徳教科書を採択 2019.7.22 小野政美(憲法都教育を守る愛知の会；愛知教科書市民の会)

・参議院議員選挙 愛知選挙区 立候補予定者へのアンケート(2019年6月18日)

愛知では、「憲法の理念を生かし、子どもと教育を守る愛知の会(憲法と教育を守る愛知の会)共同代表 榊達雄(名古屋大学名誉教授)・小林武(沖縄大学客員教授)」として、第25回参議院通常選挙で愛知選挙区に立候補予定者に以下の7項目のアンケートを行った。

愛知県内で小規模校の解消という名目で、行政当局の指導の下に小中学校の統廃合がすすめられていることについて<賛成・反対・どちらでもない；理由(以下同じ)> 国の責任で小・中学校、高等学校の35人以下学級を実現することについて 特別支援学校の「設置基準」をつくり、過大・過密問題を解消することについて 高等学校等就学支援金制度の所得制限を撤廃し、すべての高校生の学費無償化をはかることについて 教員の多忙化を解消するために、義務制、高校のそれぞれで教科等担任授業時数の上限を定め、そのための定数改善計画を策定することについて 教員免許更新制度が10年経過し旧免許所持者の更新講習は一巡した。教員免許更新制度の継続について 憲法9条を改正し自衛隊を明記するという改定案について

・名古屋市での小中道徳教科書・中学歴史・公民等教科書等の採択をめぐる課題

名古屋市は、市内広域採択地区として、河村たかし市長が日本軍「慰安婦」否定発言や「南京大虐殺」否定発言を撤回しないまま、河村市長の任命による教育委員によって教科書採択が行われている。来年の中学教科書採択では、「日本会議」が名古屋市での「育鵬社」歴史・公民教科書の採択を狙っており、河村市長も「育鵬社」歴史・公民教科書の採択を願っている。今も残る教科書採択「聴聞会」に、市教委は、「中学校の歴史学習を進めるために～望ましい歴史教科書とは～」シンポジウムまで開き、4人のパネリストの中に、侵略戦争と植民地支配を美化する教科書の執筆者の石井昌浩(育鵬社) 藤岡信勝(自由社)を参加させた。

(1)2017年小学校で「教育出版」採択、2018年7月教科書採択会議で中学道徳教科書に「教育出版」採択

名古屋市教育委員会は、2018年7月20日、教科書採択会議において、中学道徳教科書に「教育出版」を採択した。「教育出版」は、「日本教科書」の次に人権・平和・共生の価値の弱い教科書である。2017年の小学校採択でも「教育出版」を採択し、名古屋市内の小中学生は、「教育出版」で授業・人格評価を受けている。

名古屋市教育委員会議は、採択の4件の基本資料として、「教科書展示会での市民の声・意見」、「全中学の教員の調査研究報告書(「学校票」)」、「専門委員会の研究報告書」、「『意見聴取会』での有識者も講義」と決定している。しかし、「道徳」の「市民の声」件数を464通と報告するのみで、内容・傾向にも触れなかった。公開請求に対しても全面非公開とした。「専門委員会の研究報告書」は、学習指導要領との関連・内容・学習への支援など7観点で調査比較。特徴を文章表記し、特筆に太枠で囲んだ。光村4・教育出版3・東京書籍3と報告された。「全中学の教員の調査研究報告書(「学校票」)」でも、調査時間はほぼ1時間で、3学年8社24冊(別冊ノートを含むと30冊)の調査ができるはずはない。教員も教務主任と各学年の道徳主任教員で現場教員の相違には程遠い。市教委事務局は、機械的数値化で3社に絞り、中学校の現場の意見として報告した。2018年採択は、教育委員の審議の後、2017年と同じように、無記名投票となり、教育出版が3票、東京書籍が1票、光村出版は1票。「教育出版」を暗に薦める事務局の報告もあり、かなりの「出来レース」であった。現場の意見(特に優れている)は、教育出版が256票、光村が206票、東書が176票だった。審議の中で、「個人的には日本教科書株式会社が好きだ。特に安倍首相が真珠湾で和解した話がよい」という委員もいた。「調査研究協議会報告」で、学校現場からの意見(「学校票」)としては、教育出版・東京書籍・光村出版の3社の得点が高いので、3社に絞って意見交換。教育出版の方が子どもに読みやすい、「めあて」があって子どもが分かりやすい、小学校とのつながりもあるなどの意見が出た。元名古屋

市教員（理科・生活科）の野田教育委員（愛知教育大学副学長）が現場をよく知っているという形で議論をリードし、昨年と同じように「教育出版」採択の方に引っ張っていた。審議の中で、2017年の採択会議で、「市民の意見」重視の意見を語った大学准教授・小児科医師の委員が、「教育出版」の自己評価は、人格評価でよくないという意見があったが、そうは思わない」と述べた。採択審議での特定の教育委員、例えば、前回・今回の野田委員（愛知教育大学教授；元中学教員）が、採択審議での教育委員の発言の中で、中学校教員であったことを極端に重視したり、学校票の数字を意図的に操作して発言したりしたことは問題である。

採択審議における教育委員による問題とされる発言はいくつか見られた。教育委員の発言は個人的発言でも日本国憲法の理念に反するような教育理念を侵害する発言には批判が必要。2018年の採択会議の傍聴者人数は、要請により20席から40席に増加したが、大きな会場を設定し、市民・教育関係者の人数をさらに増やすこと、教科書出版社関係の傍聴者数を1社1名などに制限するなどの要請も必要。2019年の請願と口頭意見陳述により、2019年7月の請願では、事務局が40名としたのに対し、教育委員から人数制限がないなら増やしてもいいのではと発言。2019年度の採択では40名よりは増える予定である。採択会議までの名古屋市の「教科書採択システム」については、名古屋市教委が独自に行っている「意見聴取会」が大きな問題である。2017年・2018年ともに、「教育出版」道徳教科書の筆頭編集者と上越教育大で同僚である早川裕隆教授のレクチャーがあった。早川氏は子どもが学習の「めあて」を持つことが非常に大事なことと重視している。「教育出版」道徳教科書は、「めあて」を重視し、「めあて」=国定徳目があまりにも明確な教科書である。現場教員による「見本本調査研究」の人数・時間の少なさなど問題が多い。

（2）2019年採択に向けての取り組み

2017年3月に「小学校学習指導要領」が改訂されこれに準拠して編集された教科書が2018年度に文科省の「検定」を受けた。2019年は7～8月に市町村教育委員会が新教科書を採択。使用は2020年4月から。

教科書見本本展示会へ行き意見や感想を書きましょう。市民・県民は、教科書の内容等について、会場に用意された用紙で市町村教委に意見や感想を届けることができます。教育委員会に請願書や意見書を出しましょう。市民の会は、名古屋市教委に2019年小学校新教科書採択に関して請願を行いました。個人でもできます。教育委員会の採択会議を傍聴しましょう。7月から8月にかけて、各教委は新教科書の採択会議を開きます。名古屋市は7月18日の予定です。非公開の教委もありますが、そういう教委には抗議し、請願等を通して公開を求めましょう。

（3）名古屋市での「教育出版」2017年小学校・2018年中道徳教科書採択と現場での道徳授業・評価

「2018年採択会議」での「市教委事務局報告」にも見られるように、名古屋市教委事務局による特定の教科書採択に誘導するような報告であったことから、市教委に特定の教科書に誘導しないように要請する。

採択審議での特定の教育委員、例えば、前回・今回の野田委員（愛知教育大学教授；元中学教員）に見られるように、採択審議での教育委員の発言の中で、中学校教員であったことを極端に重視したり、学校票の数字を意図的に操作して発言したりしたことは大きな問題であり、注意すべきである。

採択審議における教育委員による問題とされる発言はいくつか見られた。教育委員の発言は自由であるが、個人的発言でも、教科書の中で、現職の首相発言や首相写真を特に取り上げることは、政治的なものであり、日本国憲法の理念に反するような教育理念を侵害する発言には批判が必要である。

採択会議の傍聴者人数は20席から40席に増加したが、大きな会場を設定し、市民・教育関係者の人数をさらに増やすこと、教科書出版社関係の傍聴者数を1社1名などに制限するなどの要請も必要である。2019年3月の名古屋市教委での請願では、却下された。2019年7月の請願では、事務局が40名としたのに対し、教育委員から人数制限がないのなら増やしてもいいのではと発言。2019年度採択は40名より若干増加予定。

採択会議までの名古屋市の「教科書採択システム」については、「意見聴取会」、現場教員による「見本本調査研究」の人数・時間の少なさなど問題が多いが、これらの分析と市教委要請は今後の課題である。